水害から命を守る！

詳しくは➡安心安全課

西日本に非常に大きな被害をもたらした「平成30年7月豪雨」。災害の犠牲となられた方々に謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

近年の桶川市における水害の被害につきましては、平成29年10月の台風21号による床上・床下浸水や、道路冠水による、通行止めなどの措置をとりました。台風など大雨被害が懸念されるこれからの時季、皆さんも自らの命を守るための備えをお願いします。

水害から身を守るためにできること

日常からできること

- 近所で水害が起きやすい場所について、家庭や地域で情報共有しましょう。
- 桶川市防災情報メールへ登録しましょう。
- 地震と洪水のハザードマップが掲載されている、桶川市防災ガイドで危険な場所を確認しましょう。（過去の水害履歴の閲覧や、桶川市防災ガイドの配布は安心安全課へ。）

桶川市防災ガイド

災害になるかも…

- 天気予報で洪水注意報や洪水警報が出ていないか注意しましょう。
- 避難情報が出ていないか確認しましょう。
- 不安なことは市役所に問い合わせてください。
- 異変や危険を感じたら避難しましょう。
- ひざ上まで水が浸水していると行動ができなくなります。ひざ下でも暗がりや流れが急な場合は危険です。これらの場合は自宅や建物の上の階などのほうが安全な場合があります。

水害の種類

内水氾濫

内水とは、ゲリラ豪雨など一時的な大量の降水により、道路側溝、雨水管や河川などへ排水できず地表に溜まった水のことです。内水の排水処理が追いつかず、建物や道路などが水に浸かってしまうことを内水氾濫と言います。

外水氾濫（洪水）

外水とは堤防の外側にある河川を流れる水のことです。大雨などにより川の水が増えて、堤防が壊れたり、堤防を越えることで、川の水があふれ出ることを外水氾濫（洪水）といいます。

市内での内水被害

避難が必要な災害はこんな時

災害が発生した場合、その度合いに応じて、市が**避難情報**を発令します。**ただし、避難情報の有無に関わらず、身の危険を感じた場合、自主避難をしてください。**

平成29年10月の台風21号による滝の宮線付近道路冠水の様子

危険度（小→大）

避難準備・高齢者等避難開始	• 避難に時間を要する人（高齢の人、障がいのある人、乳幼児など）とその支援者は避難を開始してください。 • その他の人は避難準備をしてください。
避難勧告	• 全ての人が指定緊急避難場所へ避難を開始してください。 • 外出しての避難が危険な場合は、近隣の安全な場所や自宅内で安全な場所に避難してください。
避難指示	• ただちに、指定緊急避難場所へ避難してください。 • 外出しての避難が危険な場合は、近隣の安全な場所や自宅内で安全な場所に避難してください。

※いきなり避難勧告や避難指示が発令される場合もあります。

避難情報の伝達方法

避難情報が発令された場合、主に次の方法で情報伝達を行います。

- **防災行政無線**
  市内75か所に防災行政無線スピーカーを設置しており、防災に関する放送をします。
- **桶川市防災情報メール**
  防災行政無線で放送した内容を防災情報メールの利用登録者に配信します。
- **広報車や消防車両**
- **埼玉県災害オペレーション支援システムを介したLアラート（災害情報共有システム）による情報伝達**
- 埼玉県災害オペレーション支援システムを介した緊急速報エリアメール配信
- **桶川市ホームページ**
- **区長または自主防災組織会長に伝達**
- **消防団による住民への伝達**
- **洪水警報の危険分布（気象庁HP）**
  指定洪水予報の発表対象でない中小河川における急激な増水による危険度の高まりが、3時間先まで地図上で提供されています。

※すべての人に対して情報が伝達されない場合も考えられます。災害に対して不安を感じた場合、避難情報の有無について安心安全課へ直接問い合わせてください。

防災情報メール登録はこちら

気象庁HPはこちら。（ご覧になりたい河川は、地図を拡大表示してください。）

洪水・内水氾濫の場合の指定緊急避難場所・指定避難所はこちら

桶川小学校	加納中学校
桶川東小学校	桶川高等学校
桶川東中学校	加納公民館
老人福祉センター（総合福祉センター内）	べに花ふるさと館
勤労青少年ホーム	日出谷小学校
桶川西小学校	川田谷小学校
桶川中学校	農業センター
保健センター	川田谷生涯学習センター
サン・アリーナ	朝日小学校
加納小学校	

避難場所は、対象とする異常な現象の種類（洪水・内水氾濫のほか、地震、大規模な火事など）により、異なります。洪水・内水氾濫の場合以外では、桶川西中学校・桶川西高等学校・城山公園などが含まれます。

用語解説

指定緊急避難場所…災害の危機から命を守るために緊急的に避難する場所。災害発生時は、その災害に対応している指定緊急避難場所へ避難してください。

指定避難所…災害の危険性があり避難した住民などが、災害の危険性がなくなるまで、一定期間避難生活をすることを目的とした施設。主に学校・体育館や公共施設。

荒川上流河川事務所の排水ポンプ車も活躍！

詳しくは➡道路河川課

提供：国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所

市西部を流れる江川は、最下流で荒川に合流しますが、台風などの大雨の際には、荒川からの逆流を防ぐために合流部の宮下樋管を閉鎖します。この際、市では国土交通省の荒川上流河川事務所へ支援を要請し、同事務所の排水ポンプ車で江川の水を荒川へ排水し、浸水被害軽減を図ります。

平成30年度 桶川市子どもフォーラム

～ぼくらの手で未来の桶川市をつくろう計画～

詳しくは➡秘書広報課

参加者（敬称略・順不同）

桶川西小：山田彩琶、田島蒼平、長谷川莉桃
加 納 小：内田幸穂、廿樂美典
川田谷小：新倉未空、大津日和
桶川東小：本田理沙子、及川実祐、宮内愛実、小林海智
日出谷小：高橋里菜、山川美帆
朝 日 小：二瓶優月、白石悠至、遠山由莉
桶 川 小：青木鼓実、宗行環奈、林広人、角森謙

市内の小学６年生の代表者20人が参加した「桶川市子どもフォーラム」が、８月２日㈭、市民ホールを会場に開催されました。

子どもフォーラムは、桶川市の将来を担う子どもたちが、まちづくりについて話し合い、自分たちの住んでいるまちへの関心を高めてもらうことを目的に開催しています。

当日は、テーマ別に４グループに分かれて討議を行い、グループでまとめた内容を発表しました。各グループの発表内容の概要をご紹介します。

Aグループ 発表内容 「緑あふれ健康なまち　桶川」

■提案

だれでも楽しめる総合公園を作る
- ドッチボール、バスケットボールが楽しめるコートを作る
- 子どもたちが遊べる器具を増やす
- 高齢者が体を動かせる器具も設置する
- 公園内に売店を作る

■活性化策
- 市民参加型のスポーツ大会などを開催
- 公園内の売店で桶川市の名物を販売
- 公園の見回り活動で安心安全に！

→子どもが安心して遊べる
→子育て世代が増える

Bグループ 発表内容 「コミュニケーションあふれるまち　桶川」

■課題
- 地域の人に話しかけられてもわからない
- 近所付き合いが少ない

■改善策

自分たちで出来ること
- 身近な人へのあいさつ、イベントへの参加の呼びかけ

協力して活動すること
- 高齢者を中心とした料理教室・スポーツ体験を企画する

■将来像

地域の人との交流が増え、ひとりぼっちの人がいない桶川市
→どんな人でも笑顔に！

Cグループ 発表内容 「安心安全なまち　桶川」

■「住みやすいまちをつくろう」

＜防犯＞
- すぐに知らせる「110番・119番通報ボタン」を設置
- 街灯や見守ってくれる人を増やす

＜防災＞
- 防災マップを作る
- 熱中症対策として道路にミストシャワーを設置

＜交通事故防止＞
- 自転車のスピードの出しすぎを防ぐため速度をはかる

＜その他の安全＞
- 駅東口の整備（エレベーター設置、ロータリーを広くする）

Dグループ 発表内容 「活気あふれるまち　桶川」

■「駅を中心に盛り上げよう！」

＜おみやげショップを作る＞
- べに花を使ったソフトクリームを作る

＜駅前をにぎやかに＞
- オケちゃんのラテアート（オケラート）
- オケちゃんの顔はめパネルを作る

＜駅前を使いやすく！＞

駅の自由通路や駅周辺に小・中学生の作品をかざる

子ども向けには…
- らくがきコーナーを作る
- オケちゃんの形をしたペットボトルアート（夜はイルミネーションに変化）

平成29年度ごみ量について報告します

詳しくは➡リサイクル推進課

平成29年度に市内から排出されたごみの量は次のとおりです。

単位：t

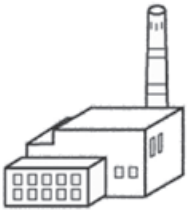
	燃やせるごみ	プラスチック	金属・ガラス・乾電池	その他ごみ	紙製の容器と包装紙	資源ごみ ※1	粗大ごみ	合計	うち資源化量 ※2	一人あたりのごみ量 ※3（g）	資源化率 ※4（%）
平成29年度	**14,081**	**2,634**	**1,098**	**395**	**276**	**1,470**	**652**	**20,606**	**6,680**	**750**	**32.4**
平成28年度	14,566	2,634	1,157	393	280	1,504	669	21,203	6,773	772	31.9

※1　古着・新聞紙・雑誌・段ボール・紙パック
※2　直接資源化量＋中間処理後再生利用量
※3　ごみ量（収集ごみ量＋直接搬入ごみ量）／（人口×365日）
※4　資源化量／ごみ排出量

（平成30年８月１日現在）

ごみ量の合計は20,606トンで、前年度と比較し597トンの減少となりました。また、ごみ量のうち資源化量は6,680トンで、資源化率は32.4％でした。資源化量のうち、古紙類（新聞紙、雑誌）、金属類などは有価物として売却し、約3,180万円の歳入となりました。ご協力ありがとうございました。

環境センターでは収集したごみを適正に処理し、資源の有効活用に努めています。ごみ減量のために一番大切なことは、ごみを出さないことです。マイバックやマイボトルを活用し、ごみを出さないライフスタイルを心掛けましょう。引き続き、「ごみ減量」と「リサイクルのためのごみ分別」にご協力をお願いします。



ごみ排出時のお願い

危険物などを絶対に混入させないでください！

ごみの分別違いや危険物が混入されると、ごみ収集時の人身・火災事故、選別作業時の人身事故、施設火災など桶川市のごみ処理運営に影響が出ます。
最近の例として・・・

①**「プラスチックごみ」に電池類が混入** ➡ 機械内で発熱し発火、施設火災につながります。
②**「金属ガラス乾電池」に使い切っていないカセットガスが混入**
　➡ ごみ収集車での爆発、または選別作業時の爆発、火災事故につながります。
③**「その他ごみ」に使い切っていないライターが混入**
　➡ ごみ収集車での発火、または選別作業時の発火、火災事故につながります。

ごみを出す際は、ルールに基づき分別を徹底していただくとともに、発火の危険性があるものについては、必ず使い切ってください。また、トゲのある枝などを袋に入れて出す場合は、「トゲ枝入り」など袋に記入していただけると、回収時のケガを防ぐことができます。ご協力をお願いします（写真参考）。